

## ●入院から手術まで

入院時、担当看護師が病棟の中をご案内します。手術前にいくつか検査を行う場合があります。主治医・看護師の指示に従ってください。

### ●麻酔科医師・手術室看護師が訪問します

麻酔科の医師、手術室看護師が、麻酔の説明にうかがいます。わからないことや不安なことがありましたら、遠慮なくご相談ください。

### ●手術の前にそろえておくもの

手術後に使う口腔ケアの道具や食事用具など、事前に準備していただくものがあります。

- |            |            |             |
|------------|------------|-------------|
| ●肌着        | ●ストロー      | ●バスタオル(約2枚) |
| ●パジャマ(寝巻類) | ●湯飲み茶わん    | ●印鑑         |
| ●洗面用具      | ●スリッパ      | ●筆記用具       |
| ●箸         | ●ティッシュペーパー |             |
| ●スプーン      | ●タオル(約3枚)  |             |

### ●入浴や洗髪について

手術前日まで、普通に入浴や洗髪ができます。手術後は主治医の許可がでるまで、シャワー・洗髪・入浴ができません。手術前日に必ず入浴をすませてください。

### ●食事制限について

手術前日の夜( )時以降は、飲食をやめてください。毎日飲んでおられるお薬についても、看護師の指示にしたがってください。

## ●手術当日

### —手術入室まで—

飲食はできません。

- 指輪、ピアス、ネックレスなどのアクセサリーを全部取り外します。貴重品はご家族の方に保管してもらってください。
- マニキュアをしている方は、爪の色がわかるようにマニキュアをとってください(なるべく入院前に行ってください)。つけ爪は入院前にはずしておいてください。
- ( 時 分)  
着替えをすませてください。
- ( 時 分)  
トイレをすませてください。
- ( 時 分)  
(点滴をいれます・水薬をのみます) ベッドの上でお待ちください。
- ( 時 分)  
看護師が手術室へお連れします。



## ●手術

- 手術室で全身麻酔をかけます。麻酔をかけた後、患者さんは眠った状態になるので手術に伴う痛みを感じません。
- 口の中の粘膜を切開(切ること)します。  
あごの骨を切って移動させ、プレートとネジなどでとめます。
- 切開した粘膜を縫合(傷口を合わせて縫うこと)します。
- あごを固定し、腫れを防止するためにバンドをつけます。
- 手術後、麻酔が半分覚めた状態で病室へ戻ります。



## ●顎間固定

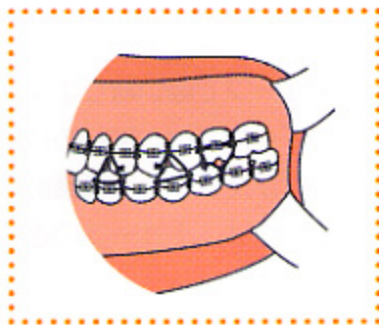
### —顎間固定について—

原則的に顎間固定を手術部位の安静のために行います。上の歯列と下の歯列をワイヤー等で結び、固定します。

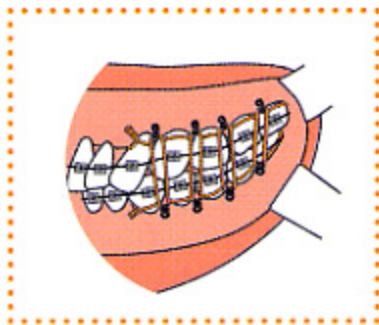
(例えば、一定期間ワイヤーでとめた後、ワイヤーをとってゴムで固定します。ゴムは患者さんご自身がかけます。かけにくい場合は、鏡をつかってかけてください。)

顎間固定をしている間は、口を開ける動作ができません。そのため、食事を流動食に変えます。歯ブラシを使えないので、水圧を使った洗浄器具などを使って口の中を清潔にします。

【顎間固定】



【ゴム固定】



顎間固定をはずした後は、口が開きづらくなっていますが、開口リハビリテーション(口を開けたり閉じたりする練習)で徐々に口を開けることができるようになります。



## ●手術直後から翌朝まで

### ●酸素吸入をします

手術室から戻ってきたら、麻酔から完全にさめるまで酸素吸入のマスクをつけます。主治医の指示ではずします。

### ●点滴をします

点滴をして輸液ゆえきや抗菌剤こうきんざいを投与します。主治医の指示ではずしますので、点滴のチューブをひっぱったりしないでください。

### ●ドレーンチューブなどの留置

手術部位にたまった血液等を排出するために、傷口にチューブ等が留置されることがあります。術後2日前後に抜去します。

### ●痰たんやつばをとります

口の中に痰たんやつばがたまったら、チューブで吸い取ります。吸引用のチューブは傷口を避けて当ててください。はじめは看護師がお手伝いをしますので、痰やつばがたまったら看護師をよんでください。チューブを使わないときは、チューブの途中を折り曲げて、クリップでとめてください。



## ●手術後の不快事項

### ●尿の管が入っています。

手術後は尿の管が入っていて、尿が体の外に自然に流れ出るようにしています。管は、患者さんの状態に応じて抜きます。管を無理にひっぱったりしないでください。

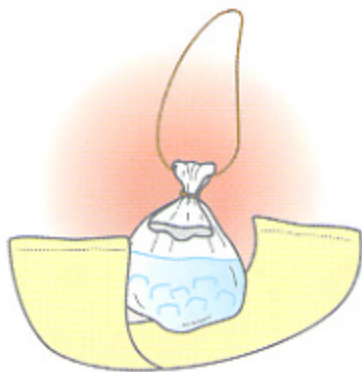
### ●次のような症状があらわれることがあります

鼻の充血、のどの痛み、はき気、嘔吐、手術した所の痛み\*、発熱、顔のはれ、顔色の変化

\*痛み止めを使います。痛むときは我慢をしないで看護師にお話してください。

### —腫れをなおすために—

手術後は傷口周辺が腫れるので、氷のう（氷と水をいれた袋）などを作って患部を冷やします。



## ●手術後の生活について

### —食 事—

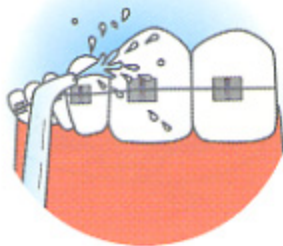
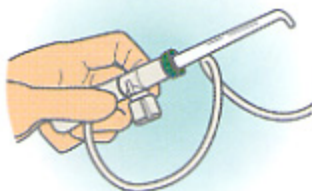
手術部位の安静のために、流動食から開始します。流動食はマジックカップなどを使い、口のすきまから流し込むようにしてとってください。手術部位に負担がかかるので、強く吸い込まないでください。

状態によっては、鼻腔栄養（鼻からチューブを入れた状態によって流動食を摂取します）を行います。



### —口の中を清潔にするために—

傷口の感染を予防するために、口の中を清潔に保つ必要があります。入院中は歯ブラシや歯間ブラシが使えないので、水圧で洗浄する器具を使って口の中をきれいにします。ポビドンヨードのうがい薬を使ってうがいをする場合もあります。



## —洗髪、シャワー、入浴について—

患者さんの回復をみて、主治医が洗髪やシャワーを許可します。  
主治医・看護師の指示にしたがってください。

